

新しい基本構想を考えるプロジェクトチーム

チーム名 健康・医療・福祉

標 題	誰もが健康にいきいきと暮らせるまち	
	<p>10年後の中野区の姿、基本構想を考える上で、中野区の人口推計に着目したところ、中野区の総人口は、20代～40代の流入により、10年先においても現在以上の水準を維持できる見込みということが分かった。しかしながら、高齢者割合の増加に拍車がかかり、将来的には総人口の減少が見込まれる。2050年以降は、年代別の人口割合で85歳以上の女性が1番高くなり、2100年には現在の人口から約10万人減少する見込みである。</p> <p>このような超高齢社会の進展によって生じる医療や介護等の社会保障費を増加等、さまざまな課題に対応するためには、【健康寿命の延伸】が重要項目であると考え、それを実現するため、「運動」「地域コミュニティ」「医療・介護」の3つの視点から分析・検討を行った。</p> <p>「運動」 ①運動等を行う場所として、約3.5割の人が体育館やグラウンド、公園などの区有施設と回答。②区有施設の利用率は増加傾向。③多目的運動場の利用について、平日の利用が少ない。④学校施設の開放時間枠に占める利用率が高い。</p> <p>「地域コミュニティ」 ①利便性による定住意向は高い②若い世代の地域活動の参加が少ないが、参加の必要性を感じている人はも少なくない。</p> <p>「医療・介護」 ①身近な診療所の数などは全国平均よりも多い。②病床数が全国平均に比べ少ない③約6割が自宅で介護を受けたいと感じている。④ケアプランに対して不満がないと答えている人は44.8%。</p>	
現在の状態	強み	<p>「運動」 区有施設をスポーツ活動の場として捉えている方が比較的多く、学校施設開放の利用率も高い。</p> <p>「地域コミュニティ」 利便性により、住みよい、住み続けたいと考えている方が多い。また、地域活動への参加とその必要性について考えを持つ方も多い。</p> <p>「医療・介護」 身近な診療所等は全国平均よりも多い。介護を受ける場として、自宅を望む方が多い。また、ケアプランの不満がない方が多い。</p>

	弱み	<p>「運動」 区有施設の少なさと位置のばらつきにより、居住地によっては利用しにくい。</p> <p>「地域コミュニティ」 民生・児童委員、町会など、地域とのつながりが弱くなっていて、若年層で特に顕著である。また、多くの方が交流の場がないと考えている。</p> <p>「医療・介護」 病床数は全国平均よりかなり低くなっている。また、ケアマネジャーがケアプランを作成する際に、中野区内でサービス供給が不足しているため、利用者に提供できない(しにくい)サービスが多数ある。</p>
将来像		<p>「運動」 ライフステージと個性に合わせ、日常的に運動・スポーツを通じたコミュニティづくりが活性化するとともに、区民の生きがいや居場所が生まれている。</p> <p>「地域コミュニティ」 より多くの方が地域での活動に参加し、お互いに理解し、支え合うことで、孤独感や将来への不安が解消され、都市の機能的な住みやすさだけでなく、心理的にも住みやすいまちになっている。</p> <p>「医療・介護」 自らが望む場所において必要な医療・介護サービスを受けることができ、「住んでよかったまち」となっている。</p>